

国際業務

国際機関への参加

当社は、世界の主要な鉄道国際機関に参加して、各国の鉄道会社や研究機関との情報交換や共同研究を行っています。そのうちの3機関をご紹介します。

●国際鉄道連合(UIC/本部パリ)

世界レベルでの鉄道会社間の協力を通じ、鉄道輸送の競争力強化と発展をはかることを目的として1922年に設立された国際機関です。現在約200の鉄道事業者・鉄道研究機関が加盟しており、2009年4月からは当社役員が会長を務めています。



米国(フィラデルフィア)のUIC世界高速鉄道会議に出席した清野会長

●国際公共交通連合(UITP/本部ブリュッセル)

主に公共交通事業者を対象に、効率的で魅力的な交通サービスの構築を目的として1885年に設立された国際機関です。現在約3,400の交通事業者、各国・地方政府の運輸関係部局、メーカー等が加盟しており、当社は2007年より交通分野における国際的課題に対するUITPの基本方針を決定する政策委員会のメンバーになっています。

●米国鉄道協会(AAR/本部ワシントン)

北米の貨物鉄道の発展を目的として1934年に設立された機関で、貨物鉄道事業者のほか、米国旅客鉄道公社(Amtrak)など約90団体が加盟しています。当社も北米における鉄道事業者との関係強化、情報収集等を目的として2009年に加盟しました。

情報収集と情報発信

当社は、国際機関や国際会議など、さまざまなネットワークを通じて海外の鉄道会社の情報を収集しています。特に、鉄道関連の事故やテロ、技術研究、国際標準化に関する情報は、収集と同時に社内への発信を行っています。

こうした情報収集・発信の拠点となっているのが海外事務所です。ニューヨーク(1964年開設)とパリ(1965年開設)にある海外事務所は、国際機関や海外鉄道会社との窓口として機能しているほか、JR各社から海外関係業務を受託して、JRグループの海外拠点としての役割も担っています。

さらに、2009年4月にはEU(欧州連合)の本部が所在するブリュッセルに、国際業務部の分室としてブリュッセル連絡室を設置し、欧州での情報収集・発信機能をさらに強化しています。



▲パリ事務所
(パリ市8区フォール・サントノレ通り)



▶ニューヨーク事務所
(マンハッタンの中心、ロックフェラープラザビル)

海外からの視察者受け入れ

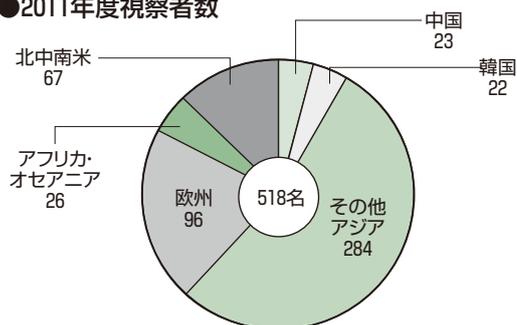
当社は、世界の鉄道の発展という国際貢献の観点から、海外の鉄道会社からの求めに応じて、さまざまな支援を行っています。なかでも、海外からの視察者の受け入れには積極的に取り組んでおり、2011年度は48カ国518名におよびました。これらの視察者には、各国の政府関係者や鉄道関係者のほか、海外の大学や研究機関の研究者なども含まれており、相互理解の促進にも役立っています。

さらに、国際協力機構(JICA)などの日本政府関係機関が実施する研修プログラムの一部を受託し、専門家による講義や現業機関の視察受け入れなども行っています。



東京駅の視察

●2011年度視察者数



海外への社員の派遣

当社は、サービス品質、輸送、車両、信号、保線など多岐にわたるテーマを通じて技術交流や相互理解の醸成をはかるため、ニューヨーク州都市交通局(MTA)、米国旅客鉄道公社(Amtrak)、英国・ネットワークレール社、韓国鉄道公社などに社員を派遣し、多様な文化・価値観を理解・尊重して業務を遂行できるグローバル人材の育成に努めています。

また、今後の国際業務を担う人材を育成するため、当社の海外事務所等に加えて、UIC、UITP、AARなどの鉄道国際機関や海外の鉄道事業者に社員を長期間派遣しているほか、欧州鉄道会社の経営幹部養成機関である「欧州鉄道研修センター」での研修や、UIC、UITP等が主催する国際会議へ積極的に参加しています。さらに2009年からは、海外鉄道コンサルティングのOJTトレーニー派遣も実施しています。



ニューヨーク州都市交通局(MTA)の研修で車両基地を訪問